

園名 奈良市立伏見保育園

はばたくなら①⑤

ころづくり・からだづくり・なかまづくり

～チャレンジタイムや日々の保育を振り返る～

5歳児

取組について

○本園では研究主題を「ころづくり・からだづくり・なかまづくり～体を動かすことが楽しいという環境づくりを～」としている。自分の気持ちをうまくコントロールできなかったり、相手との距離感がつかめずうまく関われなかったりする子が増えてきている。家庭では体を動かす機会も少なくなっていることから、基礎となるからだづくりに重点を置き、取組みを進めてきた。

○日々の保育を通して、5歳児として友達の気持ちを考え、みんなで気持ちを一つにして取り組む経験を重ねてほしい。友達と心を通わせる体験を通して、思いやりの気持ちを育てていきたい。

○職員間で園内研修を通して5歳児クラスの育ちを話し合い、共通理解を深めてきた。

実践事例

子どもの姿

保育者の関わり

保育者の思い

子どもの声

○『チャレンジタイム』・・・5歳児の子どもは、体の動きがぎこちなく、姿勢の保持が難しい姿があった。また、自信がなくクラスの活動に参加しにくい姿が見られたことから、朝の自由選択活動後「チャレンジタイム」を設定し、内容を子どもと考え工夫しながら取り組んできた。クラス全員の子どもが毎日楽しく運動を積み重ねる中で、成功体験や達成感を味わえるようにし、からだづくりと共に、こころも育てられるよう取組みを進めている。

【ケンケンで行こう】

目標を知らせることで最後まで取り組んでほしい

「疲れた」「しんどい」と途中であきらめることが多かった

「帽子かけがゴールだよ」と目標を持って取り組めるように言葉をかける

朝のサークルタイムで頑張っている姿を他児に知らせる

一人一人が頑張っている姿を伝え、次への意欲につなげてほしい

友達の姿が刺激となり、「自分もやってみよう」とする姿が増え、クラス全員が取り組むようになった

友達が取り組んでいる姿に気づいてほしい

「昨日と違う足でケンケンしてみよう！できるかな？」とチャレンジしたくなる言葉をかける

「〇〇ちゃん最後まで行けたやん」と友達の頑張りを認める声が聞かれる

自分のことだけでなく友達が頑張っている姿に目を向け、応援する気持ちをもつてほしい。

「〇〇ちゃんが、頑張っている姿を応援できる△△ちゃんも素敵だね」と言葉をかける

いろいろなことにチャレンジする気持ちを持ってほしい

足が持てない、顔がぐっと上げられない、手で体を押し上げられない姿がある

手の位置を確認したり、手を添えて体を持ち上げ、身体の動きの感覚を楽しめるようにする

できたことを一緒に喜んだり、みんなの前で発表する

自分も見てもらいたい。〇〇ちゃんみたいに上手になりたいと一生懸命リズム運動に取り組む姿につながった

帽子かけまで遠いけど頑張ろう！



様々な動きを経験してほしい



友達と教え合ったり、励まし合ったりしてほしい

足が持てない、顔がぐっと上げられない、手で体を押し上げられない姿がある

手の位置を確認したり、手を添えて体を持ち上げ、身体の動きの感覚を楽しめるようにする

できたことを一緒に喜んだり、みんなの前で発表する

自分も見てもらいたい。〇〇ちゃんみたいに上手になりたいと一生懸命リズム運動に取り組む姿につながった



【タイヤ渡り】

日々の積み重ねからできた！という経験を増やしてほしい

友達の姿に関心をもってほしい

園庭のタイヤを渡るバランスを崩して落ちてしまう

体幹の育ちに繋がってほしい

渡りにくそうにしている時はそっと手を添える

落ちずに渡ることが増えてきて「今日は行けた」と喜ぶ姿が見られるようになった

最後まで行けたことを共に喜び、友達の前で発表する機会をもつ

友達を励ましたり応援したりして思いやりの気持ちをもてほしい

「〇〇ちゃんすごい」「△△君落ちないで上手！」と友達を認める姿が出てきた

今日もうまく渡れるかな？



【マット引き対決】

ゲームを通して力を合わせる楽しさを感じてほしい

自分の考えを言葉で伝えてほしい

守る人決めたらいい

ジャンケンで決めよう！

2チームに分かれ、大小5つのマットを陣地に運ぶゲームだが、1つしかない大きなマットを選ぶ子どもが多く、引っぱり合いになってしまう

相手チームのよいところを見つけ、取り入れてほしい

保育者が話し合いを提案し、相手チームに目を向けられるような言葉がけをして、意見を出し合える場をつくっていく

力の強い人がマットを取りに行き、弱い人がマットを守ったらいい

マットを陣地で守るために多くの子が上に乗っていたので運ぶ子が少なくAチームは負けてしまう

もう一度話し合う機会をもち、その中で出た意見を紙に書き、クラス全体で共有していく

役割を分担しながらゲームを楽しむ姿につながった



やったー！できた！！



<チャレンジタイムを通しての子どもの育ちとは？>

- ・達成感
- ・友達の姿への気付き
- ・自分で工夫する力
- ・友達を応援する気持ち(励まし合い・認め合い)
- ・チャレンジする気持ち

一人では頑張れないこともみんなと一緒に頑張れる！

(まとめ)

・チャレンジタイムで様々な活動に取り組んできた。タイヤ跳びやケンケンから登り棒、大縄跳び等子どもの興味やつきたい力を考えながら活動内容を変化させ楽しんでできる様に工夫した。

・毎日取り組めるよう、内容や時間を工夫することで、遊びを通して子どもの好奇心やチャレンジしようとする意欲を引き出すことができた。

・保育者が子どもの頑張っている姿を認め、タイミングよく声をかけたり、ほめたりすることで子どもの意欲や自信につながることを再確認した。

(成果)

・少し難しいことに継続してチャレンジしたことで登り棒や縄跳び等できることが増えてきた。できた時の子どもの表情は明るく達成感を感じていた。また、他のことにもチャレンジしようという意欲につながっており、今は大縄や跳び箱を楽しんでいる。

・クラス全体やグループで話し合う経験を通して友達の考えを聞こうとする姿が増え、自分の考えを言葉で伝えることができるようになってきた。

・クラスの取り組み、担任の思いを知り、また、互いに気付いたことを話し合うことで子どもの理解や日々の保育を見直す機会となり、保育に生かすことができた。

(課題)

・「からだづくり」の取り組みを進めているが、姿勢の保持や体の動かし方には個人差がありまだまだ課題のある子どももいる。しかし、焦らず子どもが「楽しかった」「また遊びたい」と思える活動を積み重ねていきたい。

・「からだづくり」の大切さを子どもの頑張りや成長を交え、送迎時に具体的に伝えたり、保育園の取り組みを写真の掲示や園日より等で保護者への啓発を引き続き行っていきたい。